

報告第1号

火打山麓振興株式会社の経営状況について

火打山麓振興株式会社の第22期事業報告、決算報告及び監査報告並びに第23期事業計画及び収支計画について、地方自治法（昭和22年法律第67号）第243条の3第2項の規定により次のとおり報告する。

令和2年2月25日

糸魚川市長 米田 徹

令和元年12月7日

1 現況に関する事項

損益の状況

第22期の損益状況は目標利益200万円でしたが、結果は税引前利益で約603万円となりました。以下、部門ごとに内容を説明します。

① シャルマン火打スキー場の営業状況

営業環境とその影響について

(1) 降雪状況の影響

前シーズンは大雪や期中の強風と寒冷な気象条件が繰り返され、運休や関連して施設設備が損傷を受け、大変困難なシーズンでありました。当期は平成30年12月から平成31年1月上旬にかけて、比較的暖冬小雪型でありましたが12月8日には駐車場付近で30～40センチの積雪を観測し、オープン予定日12月14日には頂上付近での積雪が130センチとなり計画通り1週間前倒しでオープンすることが出来ました。

以降暮れの28日頃までこの傾向が続きましたが翌29日にはどこのスキー場にも降雪が見られ、1月7日以降はほぼ例年通りの営業に戻りました。

シーズン全体では不調であった前期に対し、来場人数8,252人増の26,758人（前年比145%）、営業収入は、索道部門で7,060万円（前年比138%）、関連サービス部門では1,570万円（139%）でした。

営業期間は計画通り145日の実稼働日数を確保できた事、加えてゴールデンウィークが超大型連休となったことなどが奏功し、利益額では約350万円となりました。

(2) 売上向上への取組

① インバウンドへの取組

近年の傾向として訪日外国人観光客が増加しており、当地もその目的地の一つとなれるよう、先進地域である長野県白馬方面への営業を強化しています。特にペンション、ショップの外国人オーナーをターゲットに営業活動を行い、18-19シーズンはその前のシーズンに比べ大幅に伸びを示しています。更に拡大させるための取組を行います。

② 施設等修繕業務等の受託

索道のメンテナンスなど大規模な修繕は、市の管理発注となりますが、その修繕工事の一部を例年通り当社で受託し、それを損益計算上に売り上げとしたほか、作業の効率化を更に進める中で、修繕業務の内製化に取り組み、経費の節減を進めてきました。

③ 北陸新幹線利用のお客様への無料シャトルバス運行

北陸新幹線が開業して以降、糸魚川駅より土日祝日に無料シャトルバスの運行をおこなっています。今シーズンも引き続き土日祝日に運行し、緩やかではありますが利用者が増加傾向にありますことから、引き続き進めます。

④ 法人回数券の販売

前期に引き続き地元の企業・団体等に支援して頂くために、前売り法人用回数券を企画販売しました。社員の福利厚生等で活用してもらい、幅広い客層の開拓に努めました。

(3) 保全・安全確保

公共交通を担うものの使命として安全確保は最重要課題として捉え、索道重大事故ゼロをスローガンに、通年の計画的な点検・整備を推進しています。また過去の遭難事故・国内外の遭難事故を教訓に、とりわけエリア外滑走による遭難事故ゼロを目標に、パトロール隊員の確保育成と共にインバウンドの増加に対応した英語標記の看板・パンフレットの整備、来場者への注意喚起放送などに努めており、今シーズンも重大事故ゼロでシーズンを終えることが出来ました。

課題・問題

(1) 人員の確保

少子高齢化が如実に表れており、パトロール隊員、圧雪車オペレーターといった専門技能を持った人員の確保が厳しさを増しています。特に当スキー場は斜面が急峻のためウインチ車による作業現場が多く、高度な作業技術と習熟度が求められるスキー場であり、他のスキー場に比べて負荷の大きい環境にあります。

また、レストラン・レンタル部門でもサービススタッフ不足も慢性化しつつあります。

(2) 施設の更新・魅力の向上と情報発信

今シーズンから初心者・家族連れ向けの新コース「ラパン」が整備され、初心者・家族連れ向け営業活動の大きな武器となっています。隣接富山県の小中学生及び保護者会など、常連客として来場される縁を通じて学校・団体の誘致を進めています。

センターハウスなど施設設備の小修繕、リニューアルが求められ、計画的な予算の確保と実施が必要となります。

② グリーンメッセ（ゴルフ場）・やすらぎ館（温泉）の営業状況

営業方針とその成果

(1) 早期開場

今シーズンも4月12日から食堂・風呂サービスを除くプレオープンとし、4月27日から本格的に営業を開始いたしました。

ドライバーも使えるショートコースとして定着しつつあるが、排水処理に課題が多く利用者からの苦情もいただいております。

4月から6月の売上は前年よりやや上向きに推移しましたが、以降は土日の悪天候と梅雨明けの遅れ(7/24)、また梅雨明けと同時に猛暑の夏となり、この傾向は9月まで続き利用客は伸び悩み、事業収入は前期とほぼ横ばいの1,050万円(106.4%)程となりました。

(2) 売上向上への取り組み

① ITの活用

消費税増税を機に事務手間の簡略化はもちろん利用者の利便性・スマート化を第1にキャッシュレス化に移行しました。

また従前どおりゴルフ教室を中心としたサービスとして「メッセ倶楽部」のほか、インターネット予約（楽天ゴー）の継続を行っております。「メッセ倶楽部」は定着し利用者の安定・拡大に効果をあげておりますし、インターネット予約も特典を付けることで前年度より大幅に向上致しました。

② イベントの開発

女性・高齢者向けに特産品や生活関連物資を景品としたコンペや、女性に特化したスイーツコンペを追加企画し、誘客の拡大に努めております。

③ その他

細かな点では女性やファミリー層が利用し易い様な「やすらぎ館」とするための取組として授乳施設やかき氷・おつまみなど食堂メニュー改善・利用者の意見・要望に応える形で

の商品開発のほか、ゴルフ場周辺の散策路などの資源活用を進めております。

課題・問題

(1) 施設の更新・改善

引き続きゴルフ場内の排水散水施設を中心に、不具合・老朽化が進んでおり、コースの維持のために適正な改良・更新計画とその実施を市と協議しながら進めています。また、コースに隣接する「みんなの森」、「遊歩道」の管理が疎かとなっていたことから、今期は遊歩道の既設看板の更新作業や小修繕を行い、地域全体の観光資源として活用されるよう一部旅行代理店等への紹介も進めています。更に十分な効用が発揮できるよう、また既存施設の適切な維持管理が進められるよう市役所担当部局と調整を図ってまいります。

(2) 安全性の確保と向上

ゴルフカートは 18 台中 4 人乗りが 4 台、2 人乗りが 14 台という内容です。コンペなど開催時には、2 人乗りカートに定員以上の乗車が散見されます。安全確保のため、定員内での利用を更にお願いととも、既に更新時期を迎えているので、順次 4 人乗りカートへの変更を要望しているところであります。

また、コース内の安全柵の整備や、カート路もきめ細やかな補修など適宜行い利用者の安全確保に努めています。

2 会社の株式に関する事項

- ① 発行済株式数 1,000株
- ② 株主数 57名
- ③ 大株主

株主名	持株数
糸魚川市	500株

3 会社役員に関する事項

① 取締役及び監査役の氏名等

氏名	地位及び担当	他の法人等の代表状況
小林 忠	代表取締役社長	農業
織田 義夫	代表取締役	前糸魚川市副市長
鈴木 秀城	取締役	株式会社 笠原建設 代表取締役社長
中村 康司	取締役	能生運輸株式会社 代表取締役社長
高鳥 健一	取締役	高鳥歯科医院 院長
齋藤 浩	取締役	有限会社 対岳荘 代表取締役社長
大貫 慶一	取締役	能生商工会 会長
倉又 孝好	監査役	前糸魚川市社会福祉協議会 会長
塚田 一孝	監査役	株式会社ツカダ運輸 取締役会長

② 取締役及び監査役の報酬等の額

取締役7名 295万円
監査役2名 6万円

③ 設備投資の状況
有形固定資産

資産の名称	取得年月日	数量	取得価格	部門
ステップワゴン	平成26年10月15日	1台	2,339,913円	共通
合計				

④ 財産及び損益の状況の推移

区	平成27年9月期 第18期	平成28年9月期 第19期	平成29年9月期 第20期	平成30年9月期 第21期	令和元年9月期 第22期
売上高	147,306千円	179,600千円	176,301千円	156,684千円	169,705千円
当期純利益	△8,604千円	14,763千円	9,811千円	△1,036千円	5,854千円
一株当たりの 当期純利益	△8,604円	14,763円	9,811円	△1,036円	5,854円
純資産	23,192千円	37,955千円	47,767千円	46,731千円	52,585千円

⑤ 主要な事業内容

事業	主要サービス・商品
スキー場事業及び関連事業	索道収入・スキースノボスクール開校・用品貸出・大会
ゴルフ場・浴場事業	ゴルフ場・用品貸出・大会・浴場施設の提供
売店事業	土産・菓子・スキー関連用品・ゴルフ関連用品
食堂部門	麺類・ご飯類・飲料類

⑥ 主要な営業所

名称	所在地
シャルマン火打スキー場	糸魚川市西飛山1821
大平やすらぎ館/グリーンメッセ能生	糸魚川市島道1302-2

⑦ 従業員の状況

期末従業員数	在籍人数(人)	平均年齢(歳)	対前期末増減数
男	10	54.8	増減なし
女	6	52.3	1名減
合計	16	53.9	1名減

第 22 期

決 算 報 告 書

平成 30 年 10 月 1 日から
令和 01 年 9 月 30 日まで

火打山麓振興株式会社
(法人番号:2110001021783)

貸借対照表

商号 火打山麓振興株式会社

代表者 小林 忠

令和 01年 9月30日現在

(単位:円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資 産 の 部)		(負 債 の 部)	
I 流 動 資 産 (79,786,751)	I 流 動 負 債 (31,386,010)
現 金 及 び 預 金	67,717,572	掛 金	445,932
た な 卸 資 産	3,430,861	未 払 金	10,665,853
未 払 費 用	986,675	未 払 費 用	4,689,442
未 収 入 金	461,531	未 払 法 人 税 等	180,000
未 収 還 付 法 人 税 等	119	未 払 消 費 税 等	1,719,100
未 立 替 金	7,187,946	預 り 金	151,583
仮 払 金	2,047	受 取 益 金	9,960,200
		受 取 賞 与 引 当 金	259,900
			3,314,000
II 固 定 資 産 (6,799,656)	II 固 定 負 債 (2,615,272)
有 形 固 定 資 産 (6,732,586)	長 期 未 払 金	2,615,272
建 物	45,200,000		
車 両 運 搬 具	9,792,913		
工 具、器 具 及 び 備 品	3,284,048		
リ ー ス 資 産	2,421,552		
減 価 償 却 累 計 額	△ 53,965,927		
無 形 固 定 資 産 (0)	負 債 の 部 合 計	34,001,282
		(純 資 産 の 部)	
		I 株 主 資 本 (52,585,125)
		1. 資 本 金	50,000,000
		2. 資 本 剰 余 金 (0)
		3. 利 益 剰 余 金 (2,585,125)
		(1) 利 益 準 備 金	100,000
		(2) そ の 他 利 益 剰 余 金 (2,485,125)
		繰 越 利 益 剰 余 金	2,485,125
		II 評 価・換 算 差 額 等 (0)
		III 新 株 予 約 権 (0)
		純 資 産 の 部 合 計	52,585,125
資 産 の 部 合 計	86,586,407	負 債・純 資 産 の 部 合 計	86,586,407

損益計算書

商号 火打山麓振興株式会社

平成 30年 10月 1日から
令和 01年 9月 30日まで

(単位:円)

科 目	金 額		
I 売上高	81,134,821		
事業収入	16,481,529		
レストラン売上	3,593,000		
売店売上	2,633,704		
修繕業務等受託料	5,326,750		
除雪受託料	60,535,181	169,704,985	169,704,985
指定管理料			
II 売上原価		1,283,865	
期首たな卸高	7,116,350		
レストラン仕入高	1,947,913		
売店仕入高	90,000		
レンタル仕入	△ 5,300		
仕入値引き	552,244	9,701,207	
受託業務等外注費		123,388,106	
当期原価		134,373,178	
他勘定振替高		△ 349,753	
期末たな卸高		△ 1,050,048	132,973,377
売上総利益			36,731,608
III 販売費及び一般管理費		32,580,783	32,580,783
販売費及び一般管理費			
営業利益			4,150,825
IV 営業外収益		584	
受取配当		160	
受取雑収入		2,962,344	2,963,088
V 営業外費用		650,400	650,400
雑損			
経常利益			6,463,513
VI 特別利益		0	0
特別利益			
VII 特別損失		429,054	429,054
前期損益修正損			
税引前当期純利益			6,034,459
法人税及び住民税		180,000	180,000
当期純利益			5,854,459

販売費及び一般管理費の計算内訳

平成 30年 10月 1日から
令和 01年 9月30日まで

(単位:円)

科 目	金 額
販売員旅費	67,780
広告宣伝費	4,356,715
大会費	410,077
販売促進費	371,531
販売手数料	729,292
役員報酬	3,010,000
従業員給与	8,290,792
従業員賞与	942,000
賞与引当金繰入額	220,000
法定福利費	2,053,605
福厚生費	3,159,585
減価償却費	2,264,740
修繕費	650,717
事務用品費	385,447
通信交通費	689,587
租税公課	191,980
接待交際費	575,998
保険料	899,135
備品消耗品費	356,540
支払手数料	1,619,361
会議費	102,330
借入リース料	67,009
燃料費	538,265
雑費	628,297
合 計	32,580,783

たな卸資産の計算内訳

令和 01年 9月30日現在

(単位:円)

科 目	金 額
商貯蔵品	1,050,048
蔵品	2,380,813
合 計	3,430,861

株主資本等変動計算書

商号 火打山麓振興株式会社

平成30年10月1日から 令和01年9月30日まで

(単位:円)

	株主資本							株主資本合計	新株予約権	評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	その他利益剰余金				
		資本準備金	その他資本剰余金	利益準備金	利益剰余金						
当期末残高	50,000,000	0	0	100,000	-3,369,334	0	0	46,730,666	0	0	46,730,666
当期末変動額											
当期純利益	0	0	0	0	5,854,459	0	0	5,854,459	0	0	5,854,459
当期変動額合計	0	0	0	0	5,854,459	0	0	5,854,459	0	0	5,854,459
当期末残高	50,000,000	0	0	100,000	2,485,125	0	0	52,585,125	0	0	52,585,125

■その他資本剰余金及びその他利益剰余金の内訳書

(単位:円)

	その他資本剰余金の内訳			その他利益剰余金の内訳			繰越利益剰余金	その他利益剰余金合計
	資本準備金減少額	自己株式処分差益	その他資本剰余金合計	別途積立金	繰越利益剰余金	その他利益剰余金合計		
当期末残高	0	0	0	0	-3,369,334	-3,369,334	0	-3,369,334
当期末変動額								
当期純利益	0	0	0	0	5,854,459	5,854,459	0	5,854,459
当期変動額合計	0	0	0	0	5,854,459	5,854,459	0	5,854,459
当期末残高	0	0	0	0	2,485,125	2,485,125	0	2,485,125

個別注記表

平成30年10月1日から
令和1年9月30日まで

I. この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成しています。

II. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. たな卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による原価法を採用しております。

2. 固定資産の減価償却方法

(1)有形固定資産

定率法又は旧定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物（附属設備を除く）については旧定額法、平成19年4月1日以後に取得した建物（附属設備を除く）については定額法、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1)賞与引当金

従業員賞与の支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当期負担額を計上しております。

4. 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式を採用しております。

III. 株主資本等変動計算書に関する注記

1. 発行済株式総数

1,000株

IV. 一株当たり情報に関する注記

1. 一株当たり純資産額は、52,585.12円であります。

2. 一株当たり当期純利益は、5,854.45円であります。

以上

附属明細書

商号 火打山麓振興株式会社

事業年度

(平成30年10月1日から 令和01年9月30日まで)

附属明細書の添付状況				
NO.	附属明細書の種類	添付状況		備考
		添付(○)	省略(✓)	
1	固定資産(投資その他の資産については、長期前払費用に限る。)の取得及び処分並びに減価償却費の明細	○		
2	引当金の明細並びにその計上の理由及び額の算定方法	○		

1. 固定資産(投資その他の資産については、長期前払費用に限る。)の取得及び処分並びに減価償却費の明細

(単位:円)

区分	資産の種類	期首取得価額	当期増加額	当期減少額	期末取得価額	当期償却額	減価償却累計額	差引帳簿価額	償却累計率
有形固定資産	建物	45,200,000	0	0	45,200,000	1,364,424	41,338,306	3,861,694	91.5%
	車両運搬具	9,792,913	0	0	9,792,913	249,911	9,562,378	230,535	97.6%
	工具・器具・備品	3,284,048	0	0	3,284,048	26,770	3,065,243	218,805	93.3%
	リース資産	4,422,096	1,634,400	0	6,056,496	1,290,624	3,634,944	2,421,552	60.0%
		計	62,699,057	1,634,400	0	64,333,457	2,931,729	57,600,871	6,732,586
無形固定資産	資産の種類	期首取得価額	当期増加額	当期減少額	当期償却額	期末帳簿価額			
		計							
投資その他の資産									
	計								

2. 引当金の明細並びにその計上の理由及び額の算定方法

(単位:円)

区 分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
貸倒引当金	0	0	0	0
賞与引当金	2,328,000	3,314,000	2,328,000	3,314,000

・引当金の計上理由及び算定の方法は個別注記表に記載しています。

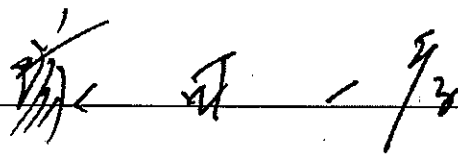
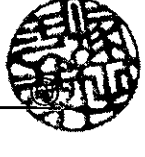
監査報告書

私ども、監査役は平成30年10月1日から令和元年9月30日までの
第22期事業年度の計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計
算書、個別注記表）及び事業報告書並びに付属明細書を監査しました結果、
適法かつ正確であることを認めます。


令和元年11月7日

火打山麓振興株式会社

監査役

監査役

倉又孝好 

火打山麓振興株式会社 第23期 営業方針

令和元年 12月 7日

全体の方針

地域のスキー場とゴルフ場を運営する企業として、安全をすべての土台として利用者の皆様に楽しんでいただけること、「地域振興」「地域の雇用確保」の役割を担うことを全社の目標とします。これらの使命を継続的に果たすには、適正な利益を確保し、安定した企業経営を行うことが必要です。そのために、社員相互やお客様とのコミュニケーションを高め、目的を共有する風土作りに努めたいと考えます。

漸く繰越欠損金を解消することが出来ました。気象等に影響を受けやすい運営ではありますが新たな需要の拡大に努め、3,500千円の利益を目指します。

シャルマン火打スキー場の営業方針

① インバウンドの誘引について

長野県白馬地域及び当県妙高赤倉地域におけるインバウンドを、より効率的に誘客できるよう両地域の外国人ペンション等オーナーとの接触を図り、「シャルマン火打」の印象を刷り込める営業活動を進めます。

また、インバウンド受けするレストランメニュー・売店商品の売れ筋傾向を把握し商材の選択を進めます。

② 障害者スキーへの取組について

障害者と健常者のスキーを通じた交流を標榜する「アイスティーカップ」には、当スキー場の特性および蓄積を評価されて来シーズンも開催が決定しています。また、外にも障害者スキーに関心を寄せる団体もあることから「障害者に優しいスキー場」として環境を整え、他に先んじて取り組みを展開します。

③ 地元事業所向け前売券の販売

地元のスキー場利用の需要を掘り起こすため、従前どおり近隣事業所での福利厚生用の前売券を販売します。

④ 新幹線利用での来場促進

JR西日本による冬のキャンペーンに参加しています。これによりJR関係の各種媒体にシャルマン火打の情報が掲載され、旅行会社の商品も展開中です。北陸新幹線開通から5度目の冬となりますが、今後周知が浸透する中で糸魚川駅からの送迎体制を維持し、そのチャンスを活かしていきます。

⑤ 経費節減等について

従業員の多様な技能を活かし、当社内で可能な修繕業務は糸魚川市と協議の上、内製化に積極的に取り組みます。

また非圧雪・パウダースノーをより満喫できるよう、ゲレンデのプチ改良を行い利用者への周知に努めます。

グリーンメッセ・やすらぎ館の営業方針

① ゴルフ場としての品質の向上

グリーンメッセ能生については、安価で比較的気軽に利用できるゴルフ場として一定の評価をいただいています。小規模ではあるがゴルフ場としての立ち位置を確立し、お客様に好かれるゴルフ場を目指すため、従業員の接客応対や身だしなみ、施設の改善・管理をしていきます。

また、施設整備以来約 20 年を経過し老朽化が顕著となっています。早急なリニューアルを要望し、コースの品質向上に努めます。

② 「メッセ倶楽部」会員サービス継続

ゴルフ教室を中心とした親睦会的なサークルのサービスなどを継続し、当ゴルフ場のサポーター組織の育成強化を行います。

③ 安全性確保・向上

安全面でも乗用カートの定員乗車をお願いする一方、行政への 4 人乗りカート整備や転落防止柵など整備に努め、利用者の安全対策に心がけます。

④ 売上げの工夫

当ゴルフ場の特色を活かした企画やイベント・コンペを計画します。また、大規模修繕の受託やその下請けをはじめ、公有地や登山道などの除草業務も新たに受託し、売上げの拡大に努めます。

⑤ 経費節減について

従業員の多様な技能を活かし、当社内で可能な修繕業務は糸魚川市と協議の上、内製化に積極的に取り組みます。

予算確保・経費面の方針

スキー場の索道など優先すべき安全や施設整備に関わる案件は、行政と協議を行い、手遅れにならないように計画的、且つ速やかな実施をお願いしていきます。

健全な会計管理と無駄を省いたコスト管理を行い、利益確保を目指します。

目標変動損益計算書

第23期(令和 1年10月 1日～令和 2年 9月30日)

商号：火打山麓振興株式会社

作成：R 1.11.15(16:11)

(単位：千円)

項目		次期計画 (A)	構成比	当期実績 (B)	構成比	差額 (A-B)	対比 (A/B)	注	備考
売上高	事業収入	1	83,033	50.8	89,095	52.5	-6,062	93.2	*
	レストラン売上高	2	16,495	10.1	16,481	9.7	13	100.1	
	売店売上高	3	3,572	2.2	3,593	2.1	-21	99.4	
	指定管理料	4	60,200	36.9	60,535	35.7	-335	99.4	
	値引・戻り高(△)	5		0.0		0.0			
	純売上高	6	163,300	100.0	169,704	100.0	-6,404	96.2	
変動費	期首たな卸高	7	1,050	0.6	1,283	0.8	-233	81.8	
	レストラン仕入高	8	7,090	4.3	7,116	4.2	-26	99.6	*
	売店仕入高	9	1,981	1.2	1,947	1.1	33	101.7	*
	レンタル仕入	10	90	0.1	90	0.1		100.0	*
	商品仕入高	11		0.0		0.0			
	仕入値引(△)	12	5	0.0	5	0.0		94.3	*
		13		0.0		0.0			
		14		0.0		0.0			
	仕入高合計	15	9,156	5.6	9,148	5.4	7	100.1	*
	外注委託費	16	16,003	9.8	16,289	9.6	-286	98.2	*
	消耗品費・燃料費	17	20,977	12.8	20,148	11.9	828	104.1	*
		18		0.0		0.0			
その他変動費	19	2,865	1.8	3,128	1.8	-263	91.6		
月末たな卸高(△)	20	1,061	0.6	1,050	0.6	10	101.0	*	
共通原価配賦	21								
変動費合計	22	48,990	30.0	48,949	28.8	40	100.1	*	
限界利益	23	114,310	70.0	120,755	71.2	-6,445	94.7	*	
固定費	給与	24	64,103	39.3	58,750	34.6	5,352	109.1	*
	賞与	25	4,350	2.7	4,802	2.8	-452	90.6	
	福利厚生費等	26	9,920	6.1	11,918	7.0	-1,998	83.2	
	人件費計	27	78,373	48.0	75,471	44.5	2,901	103.8	*
	(労働分配率)	28	68.6%		62.5%		6.1%		
	販売促進費	29	5,488	3.4	5,867	3.5	-379	93.5	
	事務管理諸費	30	3,290	2.0	3,257	1.9	32	101.0	*
	接待交際費	31	1,379	0.8	1,393	0.8	-14	99.0	*
	旅費交通費	32	1,957	1.2	2,015	1.2	-58	97.1	*
	施設経費	33	19,706	12.1	19,703	11.6	2	100.0	*
	その他固定費	34	3,186	2.0	3,317	2.0	-131	96.0	
	営業外損益	35	-8,226	-5.0	-2,312	-1.4	-5,913		
	他の固定費計	36	26,780	16.4	33,241	19.6	-6,461	80.6	
	部門固定費計	37	105,153	64.4	108,713	64.1	-3,560	96.7	*
	部門達成利益	38	9,157	5.6	12,042	7.1	-2,885	76.0	*
	減価償却費	39	2,943	1.8	2,931	1.7	11	100.4	*
地代家賃	40	588	0.4	585	0.3	2	100.4	*	
保険料	41	2,126	1.3	2,062	1.2	63	103.1	*	
設備費計	42	5,657	3.5	5,579	3.3	77	101.4	*	
部門貢献利益	43	3,500	2.1	6,463	3.8	-2,963	54.2	*	
共通固定費配賦	44								
部門貢献利益(配賦後)	45	3,500	2.1	6,463	3.8	-2,963	54.2	*	
たな卸高増減(△)	46								
固定費合計	47	110,810	67.9	114,292	67.3	-3,482	97.0	*	
経常利益	48	3,500	2.1	6,463	3.8	-2,963	54.2	*	

(注)純売上高の「対比」を超える科目に*印を表示しています。

税理士法人 山岸会計